

NetBackup™ Self Service リリースノート

10.3

マニュアルバージョン 1

NetBackup™ Self Service リリースノート

最終更新日: 2023-10-23

法的通知と登録商標

Copyright © 2023 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Veritas Alta、NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所から入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritasがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Veritas SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup Self Service リリースノート	5
	NetBackup Self Service 10.3 について	5
第 2 章	新機能および機能強化	7
	新機能および機能強化	7
	修正済みのバグ	8
	既知の問題	8
	以前のバージョンからのアップグレード	8

NetBackup Self Service リリースノート

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Self Service 10.3 について](#)

NetBackup Self Service 10.3 について

NetBackup Self Service 10.3 は自動化と制御を IT に提供する一方、ユーザーがセルフサービスで通常のバックアップやリストアのリクエストを処理できるようにします。

Self Service のマルチテナント、役割ベースのアクセス、ダッシュボード機能により、保護対象や進行中のバックアップ使用状況を表示できます。Self Service のリクエストフォームを使うと、NetBackup 管理の複雑性についてトレーニングを受けていないユーザーでも複合ポリシー管理タスクを安全に管理できます。

企業の場合

複数の場所とデータセンターで多くのエンドポイントに対しバックアップおよびリストアを管理することは、通常はスペシャリストのチームを必要とするタスクです。ポリシーへの変更を有効にすることは、時間がかかる、間違いやすい手動アクティビティとなり、これによって重大なリソースが保護されなくなる可能性があります。

直感的なセルフサービスポータルを有効にすると、複雑さと間違いが減り、多くの手動ポリシー変更アクティビティが自動化されます。また、非バックアップスペシャリストは管理および監査される環境でバックアップおよびリカバリ関連のタスクを実行できるようになります。

サービスプロバイダの場合

混合プラットフォームで複数のテナントにバックアップおよびリストアサービスを提供することは、多くのサービスプロバイダにとって課題です。サービスプロバイダはセルフサービスを有効にし、バックアップおよびリストアに対するテナントリクエストを自動化できます。

このアクションによりテナントを管理し、プロビジョニングコストを大幅に減らすことができます。

NetBackup Self Service では、複数のテナントが、インフラストラクチャのバックアップおよびリストアのリクエストが直感的に行われる目的に合ったセルフサービスポータルにアクセスできるようになります。保護環境のステータスは追跡され、報告されます。

サービスプロバイダはテナント環境間の厳密な分離およびセキュリティを保証しながら、自動化から取得します。テナントは保護内容を管理および表示できます。

インストール

NetBackup Self Service をインストールする方法について詳しくは、『**NetBackup Self Service 10.3 インストールガイド**』を参照してください。

新機能および機能強化

この章では以下の項目について説明しています。

- [新機能および機能強化](#)
- [修正済みのバグ](#)
- [既知の問題](#)
- [以前のバージョンからのアップグレード](#)

新機能および機能強化

- 基盤となる .Net Framework 4 を .Net Core 6 にアップグレードしました。
- アダプタとポータルインストールを 1 つの NetBackup Self Service インストーラに統合しました。
- NetBackup Self Service のログ機能を強化しました。
- Nutanix ワークロードのサポートの強化
AHV には、VMware タグと同様に、配備に関する詳細情報をユーザーが自分で把握できるカテゴリがあります。test や production などのカテゴリにより、定義した属性に基づいてバックアップを識別して保護できます。タグを実装する初期フェーズでは、NetBackup Self Service で DSTA に使用する資産ビューにタグを追加します。
- NetBackup Self Service は NetBackup 10.3 以降の多要素認証機能をサポートするように変更されました。
NetBackup 10.3 で実装された多要素認証の変更点をサポートするために、下記の変更が実装されています。
NetBackup プライマリサーバー 10.3 以降を追加するための変更:
 - バージョンドロップダウンに新しいバージョン番号が追加され、デフォルトで最新バージョンが事前選択されます。

- API キーと API キータグの新しい入力フィールドが追加され、SSH と REST API のクレデンシャルフィールドが削除されました。

アップグレード:

- アップグレードが完了したら、プライマリサーバーの情報を編集する必要があります。それに合わせてバージョン、API キータグ、API キーを更新する必要があります。
- API キー ID と API キーは接続性チェックで検証されます。
- NetBackup で API キーを削除してから再作成した場合は、NetBackup Self Service で API キーを更新してから接続性チェックを実行する必要があります。
- NetBackup Self Service は NetBackup 10.3 以降のマルチパーソン認証 (MPA) 機能をサポートするように変更されました。

NetBackup 10.3 で実装された MPA の変更点をサポートするために、下記の変更が実装されています。

- MPA の変更点は、[イメージの有効期限 (Image expiry)]のために実装されています。
- NetBackup Self Service からのイメージが期限切れになると、NetBackup に対して要求が生成され (NetBackup で MPA が有効な場合のみ)、その要求の承認処理が必要になります。
- MPA が有効な場合、NetBackup Self Service のアクティビティモニターにチケット ID が表示され、NetBackup の承認を待機します。
- 要求が承認されたら、NetBackup Self Service で NetBackup Self Service からの手動同期を完了して、対応するイメージを期限切れにする必要があります。

修正済みのバグ

- Hyper-V のリストアを修正しました。

既知の問題

- NetBackup Self Service でカスタマイズのサポートが削除されました。カスタマイズは、必要に応じて機能として追加されます。

以前のバージョンからのアップグレード

NetBackup Self Service 7.7、7.7.3、8.0、8.1、8.1.2、8.2、8.3、9.0、9.1、10.0、10.1、10.1.1、10.2 からのアップグレードはサポートされますが、SQL Server 2014 以降を使

用している場合に限定されます。詳しくは、**NetBackup** ソフトウェア互換性リストを参照してください。

サイレントアップグレードは **NetBackup Self Service 9.1、10.0、10.1、10.1.1、10.2** からのみ実行できます。

『**NetBackup Self Service** インストールガイド』で詳細を参照できます。「前提条件」セクションをよく読み、ご使用の環境が **NetBackup Self Service 10.3** をサポートできることを確認してください。